

高さ11メートルに反対

小田の浜
防潮堤

市が原形復旧を要請

県が気仙沼市大島の小田の浜海水浴場に計画している防潮堤の意見交換会が1日、大島開発総合センターで開かれた。県は頻度の高い津波（レベル1津波）を防ぐ海拔11・8メートルの堤防高で三つの案を示したが、出席した住民約60人は「快水浴場百選のトップ10に選ばれた日本の財産に巨大堤防を造るのは愚の骨頂」と反対一色。市も震災前と同じ形に戻す原形復旧を県に要請した。

危険区域大差なし

県によると、小田の浜ではレベル1津波の浸水想定域に民家はな

いが、県道の浸水、海水浴客の被害が心配されるため、レベル1津波対応の防潮堤を計画した。堤防背後地への防災林整備（50メートル幅）と合わせ、事業費は25

億程度を想定している。地域の意向を確認するため、意見交換会には、土手状の傾斜堤の位置を県道までセットバックするなど3案を提示。防潮堤と県道を一体化させる案もあり、県は「一緒によ

い方向を考えたい」と理解を求めた。しかし、市は「観光資源の復活が本命」とし、県に原形復旧（海拔4・3メートル）を要請していることを説明。当初は県も原形復旧を検討していたため、市の災害危険区域は原形復旧で設定しており、市は「原形でもレベル1堤防でも危険

な場合の課題が解決できれば、県もレベル1堤防にこだわらない」と地域の意向を尊重する姿勢を示した。県道を走行する車両への安全策などが課題で、来年1月に県としての考えを再度示すことを約束した。
なお、原形復旧の場合の事業費は約4千万円が見込まれる。レベル1堤防を造らない場合の差額について、「制度上、砂浜整備など他の予算に回すことはできない」という。



小田の浜の意見交換会

区域の範囲に大きな違いはない。あえてレベル1堤防を造る必要はない」と主張した。
大島観光協会の白幡昇一会長も「小田の浜は子々孫々まで残さなければならぬ日本の財産」と県の提案に反対。発言した住民13人全員が「高台まで5分以内に避難できる。堤防は無駄どころかマイナスだ」「巨大堤防ができ、油断して逃げない方が心配」などと反対意見を述べた。

2019年12月3日付 『三陸新報』 1面①